

ご挨拶

駒澤大学は、2022(令和4)年に、開校140周年を迎えます。

これもひとえに、多くの同窓生、ご父母をはじめ、宗門寺院、教育後援会、同窓会、駒澤会、関係企業、地域や社会の方々からのご支援とご厚情の賜物と心より感謝申し上げます。

歴史をたどれば、駒澤大学は、今から428年前の1592(文禄元)年に、水道橋(現千代田区・文京区)にあった曹洞宗の古刹「吉祥寺」内に創設された「学林」(旃檀林)を起源とします。1882(明治15)年に、麻布区北日ヶ窪(現六本木ヒルズ付近)に「曹洞宗大学林専門学本校」として開校し、1913(大正2)年に現在の駒沢の地に移転し、建学の理念である「仏教の教義並びに曹洞宗立宗の精神に則り学校教育を行う」ことに努めてまいりました。

歴史と伝統の中で培ってきたものをこれからも大切に受け継ぎ、そして、さまざまな学問を深く広く探求することとおして、智慧を磨き慈悲の心をはぐくみながら自己を陶冶し成長していく場であり続け、実社会で活躍する人材を育成・輩出してまいります。

本学の教育・研究活動の一層の充実を図るため、皆様からのご支援とご協力を賜りますよう心よりお願い申し上げます。



学校法人駒澤大学 理事長
松原 道一



駒澤大学 学長
長谷部 八朗

▶駒澤大学新図書館建設事業募金へのご協力をお願いいたします

募金概要

- 募集期間 … 令和2年3月1日～令和5年3月31日
- 募金目標額 … 3億円
- 募集対象 … 同窓生、在学生保証人、教職員、元教職員、宗門寺院、団体、企業・法人、その他一般の方
- 寄付金額 … 1口1万円

※1口未満のご寄付もありがたくお受けいたします。
※分割でのご寄付をご希望の場合は、募金事務室まで追加の振込用紙をご請求ください。

寄付者顕彰

駒澤大学新図書館建設事業募金にご寄付をいただいた方には、感謝の気持ちを込めて、寄付者顕彰をご用意しています。

寄付者ご芳名

ご寄付を賜りました方のご芳名を、寄付者芳名録に記載いたします。

また、大学広報誌等にご芳名を掲載させていただく場合がございます。掲載を希望されない場合は、寄付金のお申込みの際に振込用紙等でその旨をお知らせください。旧漢字につきましては、表示が困難な場合、常用漢字に置き換えさせていただきます。

なお、「個別顕彰」の対象(個人・寺院・団体100万円以上、企業等200万円以上)の方は、ご芳名および寄付額を掲載させていただきます。

寄付者銘板

個人・寺院・団体10万円以上、企業・法人50万円以上のご寄付を賜りました方のご芳名を、新図書館内に設置する銘板に刻銘し、末永く顕彰いたします。

個別顕彰

個人・寺院・団体100万円以上、企業・法人200万円以上の高額寄付を賜りました方には、新図書館落慶式へのご招待、感謝状の贈呈等の個別顕彰を行います。

新図書館建設事業募金	個人・寺院・団体	企業等
寄付者銘板へのご芳名の記載	10万円以上	50万円以上
個別顕彰	100万円以上	200万円以上

※駒澤大学新図書館建設事業募金への累積寄付額が対象となります。

申込み方法

裏面の「寄付申込み及び払込方法」をご覧ください。

個人情報の取り扱い

ご寄付をいただいた方の個人情報については、礼状・領収証の発送、寄付者名簿等の作成のための利用とし、個人情報保護に係る本学ガイドラインに基づき適正に管理を行います。

駒澤大学新図書館建設事業

新図書館は、現図書館の東隣(大学会館跡地)に、地上6階・地下3階の構造、延床面積約11,000㎡の規模で建設されます。

現図書館は、開校90周年記念事業の一環として、増加する学生数・蔵書数への対応を目的として建設されましたが、昭和48年の竣工から46年が経過しており、建物の老朽化に加え、約125万冊の蔵書を収容可能な書庫書架の不足、蔵書数の15%にとどまる開架率の低さ、多様な学修スタイルに対応できない画一的な設えの閲覧席といった諸課題を抱えており、図書館利用者の要望に応えることができておらず、国や社会から大学に求められている「学生の授業外学修時間の増大」という要請に対応するのは困難な状況にあります。

これらの諸課題を解決し、近年の大学図書館に求められる多様なニーズに応え得る図書館とするため、①建物中央に書架を集中配置し、開架率を飛躍的に向上させる「智の蔵」、②階層ごとに〈収蔵〉、〈交流〉、〈学修〉、〈調査〉、〈研究〉という概念を設け、上層階に行くほどに学びの専門性を高め、入館者が求める滞在場所を自由に選択できる構成とする「フロアゾーニング」、③多様な学修スタイルに応じ、時代に即した学修・研究を行うことができる「多様な閲覧スペース・学修空間」の3点を建設コンセプトの軸に据え、開校140周年を迎える令和4年の完成を目指し、建設計画を進めています。

なお、駒沢キャンパス構内施設整備の都合により、令和4年の完成当初から数年間、新図書館内の一部に教場機能を設けることとしています。その教場機能空間は、将来新教場棟が完成し、新図書館から教場機能を移転した後に、図書館機能をはじめとする多様な機能に転用できるよう「スタジオスペース」として位置付け、予め教場機能空間から他機能空間への改修を計画しています。

新図書館の建設に際しては、軸軸とする3つのコンセプトを踏まえながら、開校130周年記念棟に続く、駒澤大学のさらなる高度化と、図書館内に蓄積される「大学の知」を多方面へ発信する新たな拠点を整備するため、最新の技術と最高の知見を集集して建設事業を進めてまいります。

新図書館のコンセプト

「智の蔵」

智を蓄える

豊富な資料を適切な環境で保管する 開かれた書庫
紙媒体と電子媒体をシームレスに利用できる ハイブリッド・アーカイブズ

智をつかう

あらゆる媒体からなる情報にも容易にアクセス可能な 探しているのが見つけやすい図書館
オープンな空間と開かれた書架がもたらす 偶然の出会いと発見に満ちた図書館

智をつなげる

対話型の学修空間、豊富なコンテンツにアクセスしやすい設備、環境、人、組織による支援の充実した進化する図書館
人と情報が集まり、出会い、新たな智を生む「自他協創」の拠点



建設計画

●計画建物名称	駒澤大学図書館
●完成予定	令和4年 6月竣工 10月供用開始
●構造	鉄骨鉄筋コンクリート造 (一部鉄筋コンクリート造、一部鉄骨造)地上6階・地下3階
●建築面積	1,832.61㎡
●延床面積	10,559.74㎡



本のための建物、人のための場所

新図書館は、大学の知を集積する書庫「智の蔵」を、活動の場が取り囲む構成とします。智の蔵は開かれた書庫となり、新図書館は生きた知を作り出す活動の拠点となります。

- ① 本(智)を蓄える
大切な蔵書資料を集積・保管する「智の蔵」をつくります。
- ② 本(智)をまもる・つかう
「智の蔵」を活動の場で覆い、安定した収蔵環境を確保します。
- ③ 本(智)からつなげる
人の居場所と知の資源が公園のような環境のなかで混ざり合います。

閲覧イメージ



フロアゾーニングの考え方

上層階に行くほどに「研究」に特化していく構造

フロア	概念	役割
6F	研究	独立した隔離的な専門性の高い研究環境
5F	調査	コワーキング要素を残しつつ、独立性の高い調査環境
3・4F	学修	カラーニングによる協働的な学習空間
1・2F	交流	キャンパス全体に広がる交差点のような広場
B1F	中核	事務機能を集約した図書館全体の心臓部
B2F・B3F	収蔵	キャンパス全体の「知」を蓄える収蔵・保管

